

Title	開発と地球環境保全
Sub Title	
Author	松田園恵(Matsuda, Sonoe) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第881号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0881

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	松田 園 恵	主査	柳原 一夫
		副査	古川 公成
			青井 倫一
所属	柳原 一夫 研究室		

開 発 と 地 球 環 境 保 全

本研究においては、地球環境の保全と途上国の経済発展の両立をはかる方策を探ることを目的とする。研究方法としては、1970年にローマ・クラブが行った世界システムの研究をベースとして同じくシステム・ダイナミックスの手法を用いる。

先進国と途上国の関わりに主眼をおいた世界システムを構築し、コンピュータによるシミュレーションを行った結果、世界システムの問題点として先進国と途上国の格差、環境汚染、天然資源の枯渇が明らかとなった。これらの問題の中で、私は、南北問題を優先順位一位とし、「途上国の経済発展を促進する方策」を探索した。

しかし、途上国が経済発展を実現しようとする、地球環境は急速に悪化し到底人間が生活できないものになってしまうことが解った。即ち、問題は「途上国の経済発展を促進する」ための有効な方策を見つけることにあるのではなく、「限られた環境の中で南北がいかにわかちあい共存していくか」の有効な方策を見つけることにあった。

問題解決へむけて、私が提案するのは、皆で少しずつ我慢し合おうということである。基本的には、全世界の人々が自らの人口を減らし、先進国はより低水準の経済レベルで満足するしか道はないというのが、シミュレーションの結果である。世界システムは非常に優れたフィード・バック系であるが、地球環境の制約条件は非常に厳しい。開発と地球環境保全を両立させるためには、人類はフィード・フォワード系を取り入れた世界システムを構築していく必要があると考える。